エコアクション21～環境経営レポート～

2022年度（2022年6月～2023年5月）

NITTETU

日鐵鋼業株式会社

作成日:2023年6月19日

□ 目次

□ごあいさつ ・・・

□ ごあいさつ

　自然環境を守りつつ地域経済の発展に寄与してくことを経営理念に掲げています。
そのために全社をあげて各々の部門で自主的に策定した活動計画に基づいて一つひとつの取り組み事項を確実に遂行していきます

環境経営方針〈環境理念〉

日鐵鋼業株式会社は鉄鋼一次加工販売業及び太陽光発電という事業活動において常に地球と地域の環境の保全に貢献します。

〈環境経営に対する方針〉

一　環境経営に積極的に取り組むために環境取組み体制を構築し、継続的改善を推進するため次のことに取組みます。

○事業活動全般におけるＣＯ２排出量の削減

○太陽光発電による電力供給への貢献

○事業活動全般における水使用量の削減

○事業活動全般における産業廃棄物の削減

○提供及び購入する製品、サービスにおける環境配慮に取り組みます。

二　環境に関する法律、規則、協定を全社一丸となって遵守します。

三　環境に対する本方針と方針遂行の為のシステムを全社員に周知徹底し環境に対する意識の向上につとめます。

四　我社周辺地域についても継続して清掃を行うなど地域に貢献します。

制定日：2009年8月10日
改定日：2022年6月6日

日鐵鋼業株式会社
代表取締役　能登伸一

□ 組織の概要

（1）　社名及び代表者名

日鐵鋼業株式会社

代表取締役　能登　伸一

（2）　所在地

本社・工場　広島県福山市曙町四丁目16-14

第2工場　　広島県福山市曙町四丁目142-2

第3工場　　広島県福山市曙町四丁目20-6

多治米倉庫　広島県福山市多治米町六丁目10-9

（3）　環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者　　専務取締役　能登　薫　　TEL：084-953-0816

担当者　　経理総務課　久松　莉奈・岡　成美

（4）　事業内容

ガス溶断、レーザー切断、のこ切断による鉄鋼の一次加工品の製造及び販売

（5）　事業の規模

製品出荷額　　23.1億円（2022年度）

	本社・工場	第2工場	第3工場	多治米倉庫
従業員	55名			無人
延べ床面積	2,500㎡	1,650㎡	2,630㎡	300㎡

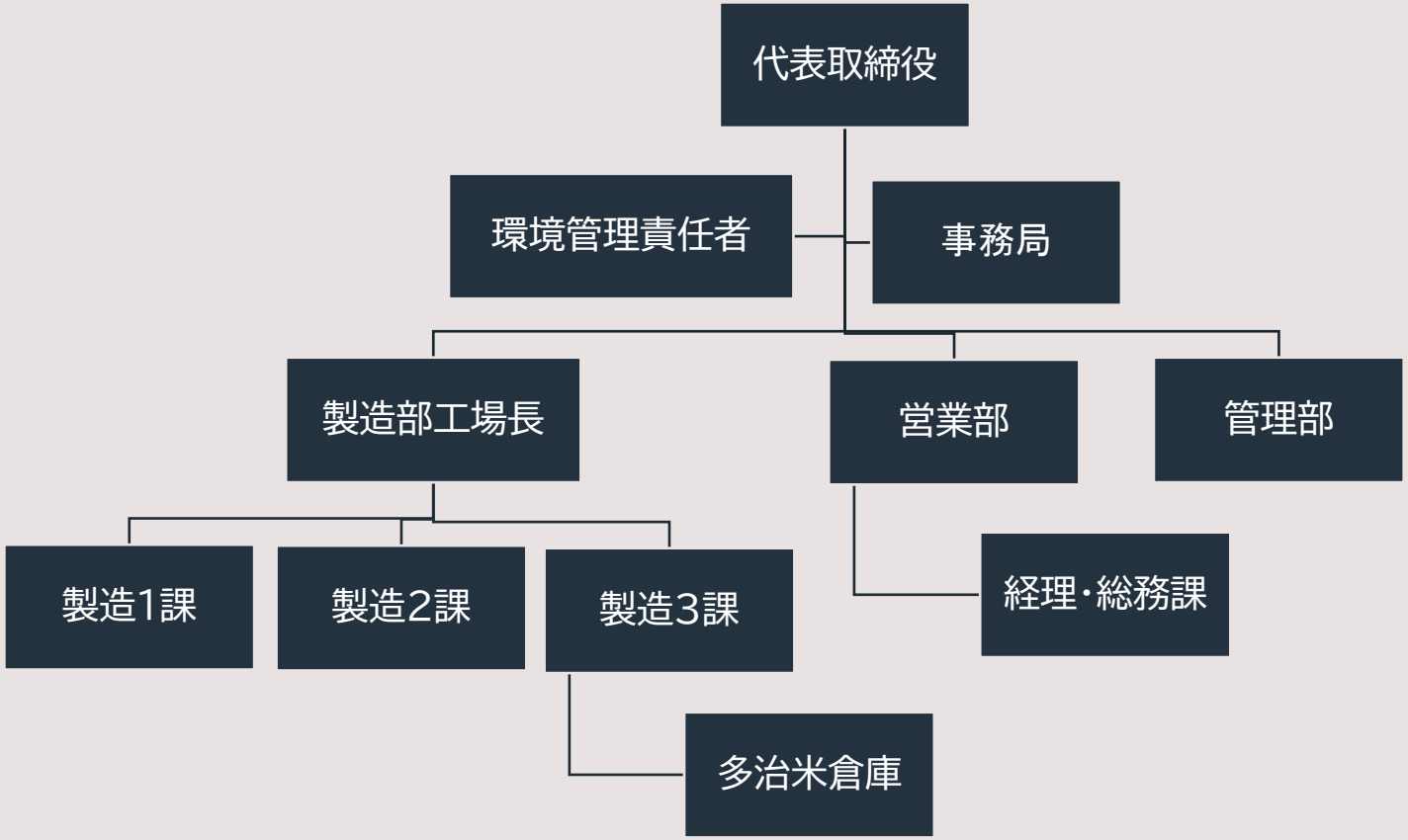
（6）　事業年度　　6月～5月

□対象範囲(認証登録範囲）

事業活動　：　鉄鋼一次加工販売業、太陽光発電事業

対象事業所：　本社・工場、第2工場、第3工場、多治米倉庫

□取組体制



□組織の役割

代表者（社長）	経営における課題とチャンスの明確化
環境管理責任者	環境経営に関する統括責任,環境管理責任者、3S継続的改善プロセス会議の事務局
事務局	環境経営目標、環境経営活動実施計画書原案の作成と集計・評価
製造部工場長	製造部全体における環境経営システム実施
課長	項目の運用管理・問題点の発見、是正、予防処置の実施
社員	個々の取組み実施項目の策定と年間活動計画作成と実行

□環境経営目標と実績（2022年度）

※中国電力㈱ CO２換算係数(実排出係数)： 0.510(2008年度実績）を使用

※㈱イーセル CO２換算係数(調整後排出係数)： 0.592(平成28年度実績）を使用

項　目	単位	2021年度実績	2022年度目標	2022年度実績	達成度（%）	2023年度目標
売　　上	千円/年	1,524,864	1,900,000	2,310,857	達成122%	2,500,000
電気使用量	kg-CO_2/年	408,560	499,700	498,204	達成100%	530,000
	kg-CO_2/万円	2.68	2.63	2.16	達成121%	2.11
化石燃料	kg-CO_2/年	115,562	142,500	114,450	達成125%	122,500
	kg-CO_2/万円	0.758	0.750	0.495	達成152%	0.490
一般廃棄物排出量	kg/年	602.5	743	695	達成107%	745
	kg/百万円	0.395	0.391	0.301	達成130%	0.298
産業廃棄物排出量	m^3/年	32.70	40.28	30.50	達成132%	32.8
	m^3/百万円	0.0214	0.0212	0.0132	達成161%	0.0131
水　使用量	m^3/年	867	850	1,963	未達成	1924
提供する製品、サービスの環境配慮	アイテム数/年	31	33	27	未達成	29

□ 環境経営活動の取組計画と評価

取り組み計画	達成状況	評 価(結果と次年度の取り組み内容)
電力の削減	全体評価 A	
・こまめな消灯	○	誰もいないところは電気を消している
・不良品による再制作削減=QMS運用	○	QMSによって減少したがまだ完全ではないから継続していく
・デマンドコントロール	○	効果あり、継続していく
・材料配置換えで効率化(導線検討)	○	クレーン可能範囲内に置場変更したから安全に作業できるようになった
・工程の見える化強化	○	タブレットで作業することによりリアルタイムでわかるようになった
・空調温度の適正化(冷房28℃暖房20℃設定)	○	設定温度を守っている
自動車燃料の削減	全体評価 A	
・アイドリングストップ	○	月に一度の配送会議で呼びかけをしている
・急加速・急停車の防止	○	月に一度の配送会議で呼びかけをしている
・効率的な配送業務 納期工夫	○	配車係を決めたことによりだいぶ効率的になりつつある=継続
・配送Gと営業Gとのコミュニケーション向上	○	月に一度配送会議をしている
・配送メンバー同士のコミュニケーション向上	○	かなりチームワーク感が醸成されてきた
一般廃棄物の削減	全体評価 A	
・裏紙使用	○	ほぼ100%裏紙の使用を行っている=継続
・分別による古紙のリサイクル化	○	月に1度の資源回収
・OA化(ドキュワークス)による印刷物の削減	○	3S活動の取り組みにドキュワークスの整理整頓を追加
・残材管理をデータ化(ペーパーレス)	○	リサイクルはできている

取り組み計画	達成状況	評 価(結果と次年度の取り組み内容)
産業廃棄物 の削減	全体評価 A	
・3S活動によって不要品を購入しない	○	購入に際してはしっかり審議している=Gミーティングで検討
・バンギの材質を堅いものにする	○	さらに各部署で色別分けをして管理=バンギ回収ボックス設置
・発注点の見直しを定期的に実施	○	3S活動計画通り開催
スクラップ排出量の削減	全体評価 A	
・板取の歩留まり向上	○	早めの受注で内容に応じた母材発注で効果
・より正確な残材管理とΣネストシステム活用	○	残材管理が一部デジタル化になった効果あり
・業務分担化による迅速な手配で歩留まり向上	○	外交営業と手配担当者の連携
・ミスによる再製作削減=QMS構築と運用	○	QMS運用と継続
水道水の削減	全体評価 C	
・事務所節水の推進	○	出しっぱなしを抑制して効果=掲示物設置
・のこ切断機の切削水管理	△	継続する
・ガスの散水節約	×	取組みは継続、新工場のガス溶断稼働によって増加
・雨水有効利用	○	植木、花へ水やり
提供する製品、サービスの環境配慮	全体評価 A	
・レーザー、ガス切断からFB使用	○	外交営業による提案を促進
・通い箱利用による梱包資材の節約	○	パレット、鉄製パレティーナを増量した
地域貢献	全体評価 A	
・会社周辺の清掃	○	朝の10分間清掃に定期的に取り入れるようにした

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）	遵守評価
高圧ガス保安法	保安監督者の選任、消火設備等	○
消防法及び高圧ガス保安法	貯蔵開始の届け出、警戒標識等、標識の提示	○
廃棄物処理法	一般廃棄物(紙くず.生ゴミ）、産業廃棄物（廃プラ、廃油、木くず）	○
フロン排出抑制法	フロンが含まれるものを使用するものについては使用時簡易点検1回/3月、定期点検1～3回/年	○
電気事業法	技術基準適合維持・工事計画の届出・保安規程の届出	○
プラスチック資源循環法	排出を抑制	学習した 今後義務化されることも予想される

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、違反、訴訟および苦情等も過去10年間ありませんでした。

□ 代表者による全体の評価と見直し・指示

① 環境関連法規制等の遵守状況

環境関連法規制等は遵法状態にあることを確認した。

② 問題点の是正処置及び予防処置の状況

問題点や是正及び予防処置を必要とする事象は発生していない

③ 前回までの代表者の指示事項への対応

・ペーパーレス化、まずは作業指示書を完全撤廃に取り掛かった

・工程の見える化については業者の対応待ち、催促中

・活動計画にEA21、３S、QMSの取り組みを盛り込んで作成した

・製造2課（レーザー部門）においてレイアウト変更を実施した

（見直し・指示）

①環境経営方針：指示なし

②環境経営目標及び環境経営計画：指示なし

③実施体制：指示あり（新工場において予定していた機械設備が設置完了したので改善活動体制を一部変更する必要がある）

2023年6月18日
代表取締役　能登伸一

□ 環境活動の紹介

ファイバーレーザー機移設

ソフトボール大会参加

汚染マップ作成

事務所ワックスがけ

新開先機導入

新入社員歓迎会

□ 1年を振り返って

　鉄鋼業界を取り巻く環境は、依然として極めて予測困難な状況にあります。
新型コロナ禍は終焉しましたが、予想される金利の上昇は非常に気になるところです。
不透明な経済環境から、あらゆる情報を精査して我々をとりまく景気動向について意識を向けておく
必要があります。そして環境経営に取り組むわが社にとって現在も続いている原材料やエネルギーの高騰は
非常に気になるところであり、より一層真剣に取り組まなければならないと思っています。
全員参加の改善活動は“日鐵内総幸福向上プロジェクト”としてEA２１、３S活動そしてＱＭＳ（品質マネジメントシステム）の要素を全て取り入れ各部署が自主的に年間活動計画を策定して社員全員で取り組みます。
「儲かる改善」「幸せ実現の為のEA２１」に向け今年も進捗会議を行いながらしっかりとPDCAサイクルを
循環させます。加えて労働環境の改善も進めていかなければなりません。一人ひとりの経済的な豊かさを両立させる「日鐵鋼業の働き方改革」を実現させます。既にやるべきことが明確になっている事項、具体的には
①ミス、クレームの徹底排除、②業務分担化、③多能工化推進と４月の継続的改善プロセス会議で提案された作業指示書撤廃は大きな効果が期待できます。すでにソフト面などの準備は整いました。製造、営業が協力してこの改革を早期に成し遂げます。
今期の経営スローガン“**みんなが主役！やり遂げよう未来のために！**”のもと、
社員一人ひとりがその気になって取り組みます。